

郡上八幡における街のイメージ構造に関する研究

1G02J079-1 松崎 直紀*

Naoki Matsuzaki

「水と踊りのまち」郡上八幡の街のアイデンティティを把握するために、地域住民によるイメージマップの調査と分析を行った。これによって郡上八幡を説明するための主要素として住民が多く想起したものは「河川」・「橋」・「水環境施設」・「寺社」・「通り」であった。また、現在と子供の頃を描いたイメージマップを比較考察すると、街のイメージ構造把握の仕方に違いが表れた。

Key Words : イメージマップ、空間認識、郡上八幡

1. 研究の背景と目的

現在、多くの地方都市において社会資本の整備とモータリゼーションが進展し、それとともに地域住民の生活スタイルも変わってきている。街の中心市街地や郊外のショッピングセンターへの買い物に要する交通手段として自家用車が欠かせなくなっている。本研究で対象地としている岐阜県の郡上市八幡町の旧市街地（通称、郡上八幡）は他の地方都市と同様に近代化による市街地の更新と拡大が行われている一方で、歴史的な古い街並みを保存している。街の中心を流れる吉田川と島谷用水や北町用水と呼ばれる生活用水を利用して古くから洗濯などが行われおり、それらの用水路を伴った街並みは日本人の生活の原風景とも捉えられ、観光地としても知られている。しかし、冒頭で述べたように利便性を追求する現代の生活では上・下水道の整備が行われ、車道拡幅のために用水路を暗渠化するといった時代の流れにのみこまれている。その結果、昔ながらの生活システムが消えつつあり、この街の新たな魅力と呼べるものを見つけ出ししていくことが、これからのまちおこしで必要になってくることではないかと考える。

そこで郡上八幡における街のアイデンティティを考えるにあたり、住民がこの街をどのように認識しているのかをイメージマップを用いて本研究では明らかにする。本研究では日本の懐かしい風景を有すると思われる郡上八幡の今と昔のあり様を住民の視点から見えていくことで、今後の郡上八幡らしさを考えるのに意義があると考え。イメージマップの上に想起された要素を詳しく追っていき、住民が認識している郡上八幡の要素を整理することで、街のイメージの構造構成要素を明らかにし、今なお残る水環境施設との関わりを中心としたまちづくりを進めている郡上八幡のアイ

デンティティを視覚化させようと試みるものである。

そのため地域住民の性別・年齢・居住歴に注目しながら、新旧の街のイメージ構造に相違が存在するのかも考察していく。

2. 既存研究及び本研究の位置づけ

(1) 既存研究の整理

都市のイメージ構造や住民の空間認知に関する研究は多く存在する。以下に整理した既存研究は地方都市のイメージ構造について述べており、主にその対象とする地方都市の住民がイメージしている街の空間構成について整理している。

①『地方都市』に対する市民イメージの構造化について¹⁾

地方都市そのものの位置づけは市民の意識の中にあるとして、地方都市が持っている情緒性など内面的なものを考慮するためイメージ論的把握を行うことによって、市民が持っている地方都市イメージ構造を分析しようとするものである。

②都市の心象風景に関する研究

一長野市の心象風景のイメージ構造について²⁾

空間認知の一断面である場面的性質を持つ心象風景の情緒的意味と実際の場面の情緒的意味との比較を行うことで両者の相違を明確化し心象風景の情緒的意味の特質という新しい視点よりその都市固有の地域性を探るものである。

* 早稲田大学理工学部社会環境工学科景観・デザイン研究室 4年

③歴史的市街地を持つ地方都市のイメージ構造³⁾

越前大野市市街地住民に対しアンケート調査を行うことにより都市イメージを構成する要素を抽出する方法の妥当性を検討するとともに、この方法をもとに、大野市と同様に城下町を基盤として発展し市街地もほぼ同じ規模(2×3km)をもつ、高山市、亀岡市市街地住民を対象にアンケート調査を行い、住民によってイメージされた要素の属性や空間関係を分析することを通してこれらの都市のイメージ構造における共通性と特異性を明らかにするというものである。

(2) 研究の位置づけ

既存研究では都市構造や都市の歴史性について視覚的に捉えたものや、街のイメージに関してある程度の要素を口頭で抽出したものについて分析や考察を行ったものが多くある。本研究では口頭による抽出ではなく、イメージマップという方法を用いて街に関する説明の想起をお願いした。また、既存研究では口頭で要素を抽出させるにあたり、誘導的な部分が出てくるが、本研究では白紙にイメージマップを描いてもらうことのできるだけ自由度を大きくとることができるように考慮した。地方都市の一つであり、水環境を中心とした街を育てていこうとしている郡上八幡においてこの街を説明する要素として何が相応しいのか、また水に関する住民の認識のされ具合は今後の郡上八幡のまちづくりを考えていく上で時代の変化に対応しているのかを整理していく。

3. 対象地の概要

(1) 郡上市八幡町の概要

郡上市八幡町は県都の岐阜市まで54.4km、飛騨地方の高山市まで72.8kmの距離のところにあり、美濃各地、飛騨高山、越前大野、白川郷に通じる交通の要所として発達した。八幡町の93%は山林であり、和良山脈、越美山脈を代表とする大小の山脈があり、それらの山間を縫うように河川が存在する。町域を東西に二分するように南流する長良川やその支流の吉田川、小駄良川、乙姫川等がその代表的なものである。

年平均気温は13.4度、年間総合降水量は約2500mmと、内陸としては多雨地域である。3月・6月・8月の降水量が年間降水量の約4割を占めている。

地層が石灰岩層による複雑な褶曲構造のため、保水力に富み、湧水が豊富な土地となっている。湧水の一つである「宗祇水」は全国名水百選に選ばれ、水都と

しての郡上八幡を印象づけている。

市街地人口は約1万人であり、夏には日本三大民謡とされている郡上踊りが開催され、「水とおどりのまち」として有名な観光地でもある。図1に郡上八幡の位置を示す。



図1 郡上八幡の位置

(2) 郡上八幡の水環境整備について

郡上八幡らしさ、といった街のイメージは街の水環境の豊かさと直結していると考えられる。そのように考えられる主な理由の一つとして、水環境の豊かさを活かすための空間整備活動が官民の具体的な協力で行われている実態がある。郡上八幡では用水路・井戸・水舟などを核としたポケットパークや水辺の遊歩道といった空間整備が盛んである。1980年代半ば以降、整備対象を着実に拡大しているが、いずれの場合にも行政による空間の整備と住民による維持管理活動・組織がリンクしている。またこの流れによって生まれたポケットパークや遊歩道は観光拠点ともなり、隣接地の店舗やギャラリーへの波及効果も生んでいると考えられる。

4. イメージマップ調査

(1) 調査方法

街の構造を住民がいか理解しているかを調べる方法として、本研究では対象としている郡上八幡に住む住民を中心としたその街を利用する人々に、郡上八幡の説明を地図で自由に描いて示す「イメージマップ法」を実施した。イメージマップ法で住民によって作成されたイメージマップに描かれている想起された要素(以

下、想起要素と呼ぶ)を丁寧に観察していく。また、これらのイメージマップの一部について作成者へのヒアリング調査を行った。

郡上八幡の街のイメージ構造を抽出するために、イメージマップ作成の依頼をするにあたっては、「郡上八幡のまちを説明するようなつもりでまちについて思い浮かぶものを描いて下さい」といった表題を設定し、白紙の上にマップを描いてもらった。

あわせて、郡上八幡での居住暦の長い人に向けては、一昔前における郡上八幡の街のイメージ構造を抽出するために、「郡上八幡の昔を知らないという子供たちに、昔の八幡町を説明する地図を描いて下さい」として、昔の街の様子についてのマップを作成してもらった。昔の八幡町を描くときはいつ頃の八幡町を描いたのか、年代、あるいは当時の年齢を描いてもらった。

(2) 調査結果

まず、回収したイメージマップ作成者に関する属性を整理する。細かい地区による再生要素の検討を行ったかったが、属性アンケートに対して無記入のまま提出した回答者も多くいるため、吉田川を境界として南北地域に分割し、「北部地域」と「南部地域」という分類にした。図2に郡上八幡の市街地図を示す。

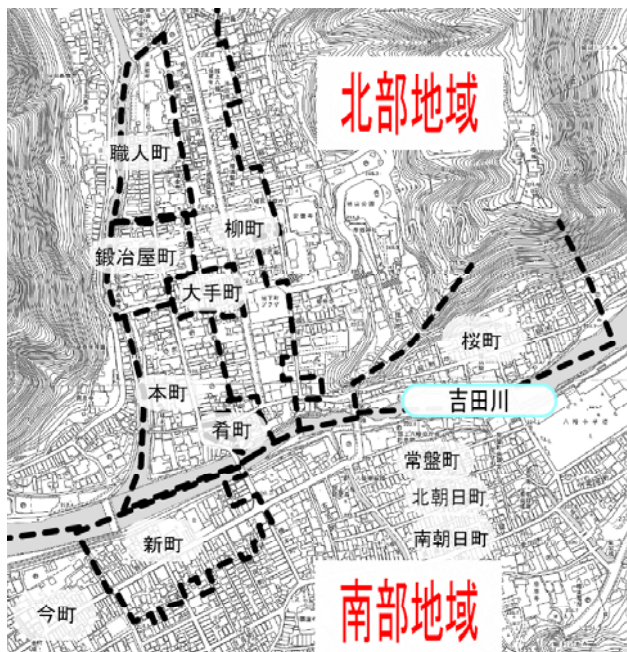


図2 郡上八幡の市街地図

また、現在と子供の頃(以下、過去と呼ぶ)のイメージマップに関して、性別・年齢別・地区別・在住暦別に分類したものを以下の表1に表す。

表1 属性別回収マップ部数

回収した資料の内訳	現在	過去	回収した資料の内訳	現在	過去
性別による分類			地区による分類		
男性	10	14	北部地区	2	3
女性	5	3	南部地区	9	8
無記入	1	0	その他	1	1
年齢による分類			無記入		
10代以下	0	0		4	5
20代	3	2	在住暦による分類		
30代	5	4	1年未満	1	0
40代	4	6	1年~5年	1	0
50代	3	4	6年~10年	0	0
60代	0	1	11年~20年	3	1
70代以上	0	0	21年~30年	2	3
無記入	1	0	31年以上	8	13
合計	16部	17部	無記入	1	0
			合計	16部	17部

住民22名に直接描いてもらったイメージマップ(現在16枚・過去17枚、の合わせて33枚)に番号をつけ、No.1からNo.22までのイメージマップを示し、各イメージマップの想起要素を表で示す。表では想起された要素を黒塗りとした。ここでは、サンプルとしてNo.1の例を示す。

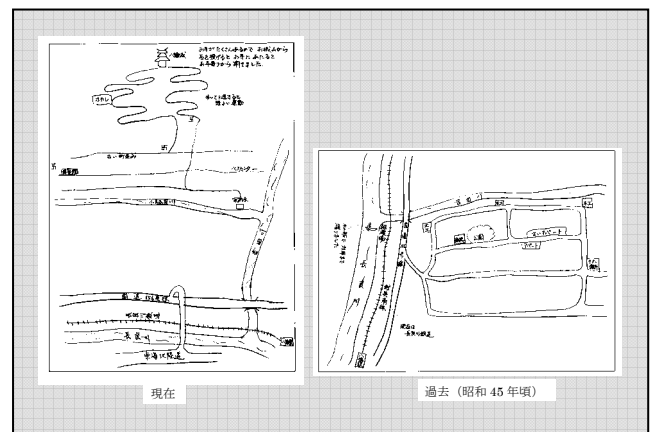


図3 イメージマップ No.1

表2 想起要素 (No.1)

現:現在 過:過去	現	過	想起要素	現	過
河川			通り		
			殿町通り		
			職人町・鍛冶屋町通り		
			本町通り		
			大手町通り		
橋			R156号線		
			R256号線		
水環境施設施設			その他の主な施設(五十音順)		
			宗祇水		
寺社			た		
			城山表道		
			十六銀行		
交通施設			大正町公園		
			郡上八幡駅		
			は		
			長良川鉄道(旧国鉄越美南線)		
			博覧館		
			八幡城		
			岐阜バス待合室(城下町プラザ)		
			古い町並み(柳町)		
			ホテル積翠園		
東海北陸自動車道					
通り			ま		
			柳町通り		
			木工所		

現在と過去（子供の頃）のマップについて

回収したイメージマップ全体における現在と過去の想起要素は以下の表とグラフで表される。

表3 全体の想起要素数

	現在	過去		現在	過去
河川	31	21	寺社	30	19
橋	39	29	交通施設	10	10
水環境施設	23	14	通り	87	41

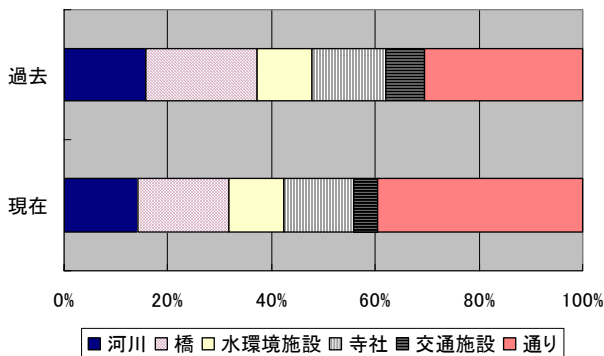


図4 イメージマップ全体に描かれている要素の割合

図4より、全体の中で特に多く想起されていたのは通りであり、次に橋であった。河川を含めてそれらの要素はマップを描く上でなくてはならないものであるからある程度、想起数の多さは予想できたが、今回の調査で新たな驚きをもたらしたのは街の特徴となる要素が水環境施設だけではなく、寺社の存在が大きいということであった。古くは街を外から防衛する砦という役割から現在は子供の遊び場、時を告げる鐘の音、といった幅広い役割をこなしてきており、住民の心の中にも深く浸透していると考えられる。図5に主な寺社の位置を示す。

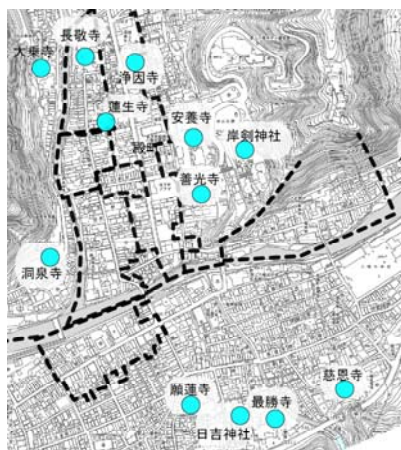


図5 郡上八幡の主な寺社

調査結果から、現在と過去において共通して想起される要素と、現在と過去それぞれの時代でのみ想起されている要素がみられた。

共通している主な想起要素は河川や橋、寺社、そして各地区の通りであり、ほとんどのマップで想起されていた。

これに対して過去のマップには作成者が子供の頃に居住していた地区を中心に、遊び場や親に連れられて訪れたお店の名前が描かれた場所が想起されており、住居地区以外の要素はあまり描かれていない。おもちゃ屋や駄菓子屋が描かれている。その他、当時の場所につまわる説明が多く描いてあり、道路は綺麗に舗装されているものは少なく、一部の市街地を除いて田畑が多く存在しており民家も少ない様子が描かれていた。

以下の図に過去のマップの代表的なものを例として示す。

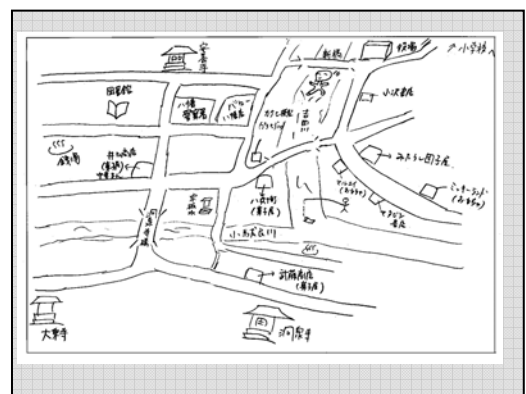
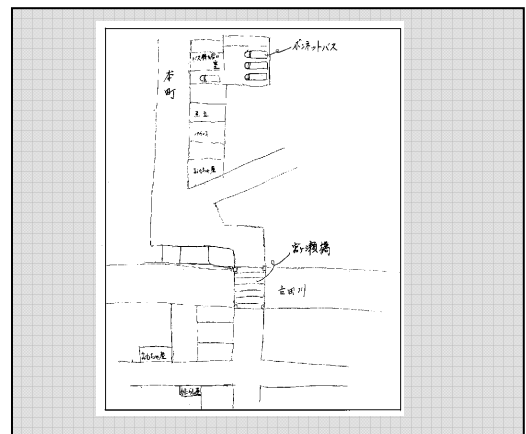


図6 過去のイメージマップの参考例

一方、現在のマップには郡上八幡の観光要素ともなっている古い街並みを残している北部地域（柳町・殿町・職人町・鍛冶屋町・本町）の様子が描かれているものが多かった。また、観光客用の駐車場やトンネル、高速道路といった現代の車社会の進展を象徴する要素も多くのマップで認められ、現在のマップの代表的な想起要素と考えられる。過去のマップが作成者の身近

な世界を表しているのと比較すれば、現在のマップは広域な範囲を対象としたものとなっているのも特徴の一つと考えられるだろう。
次に主要要素の詳細について考察する。

河川について

主な想起要素として「河川」「橋」「水環境施設」「神社」「交通施設」「通り」に関連する要素が多く描かれている。それらの想起された要素の内訳を示す。ここでは「河川」に関する内訳を示す。(数字は要素数)

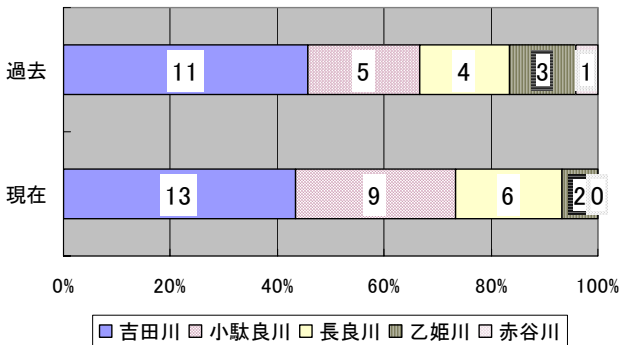


図7 河川に描かれている要素数 (数字は要素数)

世代について

次に、年代によるイメージマップで想起された要素を以下のグラフに示す。今回の調査では図4でも明らかかなように30代から50代にかけての作成者がメインを占めており、過去のマップとしても今から20年から40年前のものを描いているものが多かった。

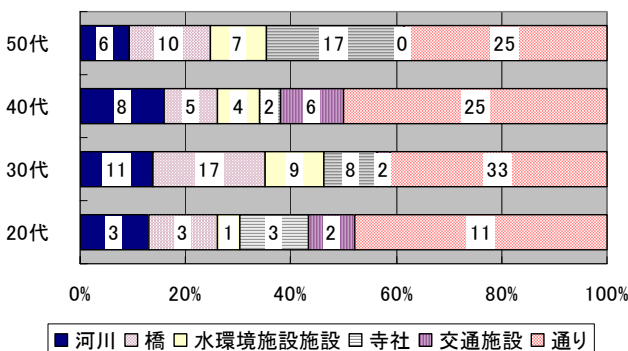


図8 世代で見る想起要素数の割合 (現在)

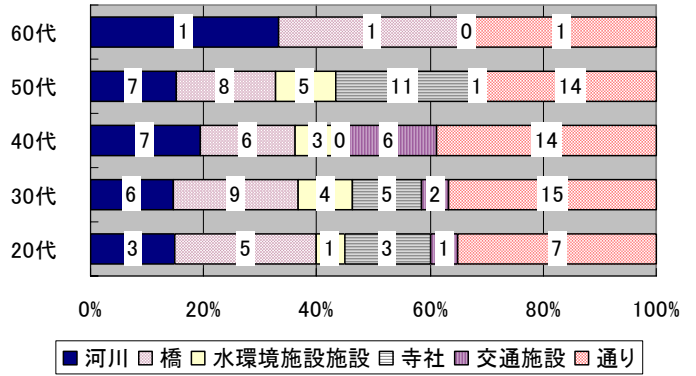


図9 世代で見る想起要素 (過去)

水環境施設について

水の街・郡上八幡の都市構造を考える上で河川と用水路の二つの存在は大きいと思われたが、イメージマップによって想起されたのは吉田川・小駄良川といった河川がほとんどであり、用水路の想起はあまり見られなかった。図10は「水環境施設」に関する想起要素の割合である。用水路として昔から親しまれてきた島谷用水は、昔と比較して現在はあまり想起されていない。以前は街の至る所にオープンとなっていた用水路が現在は暗渠となっていることと関連しているのかどうかを確かめるための方法としてヒアリング調査を行った。その他、イメージマップの作成の背景となった要素などについても同様に行う。

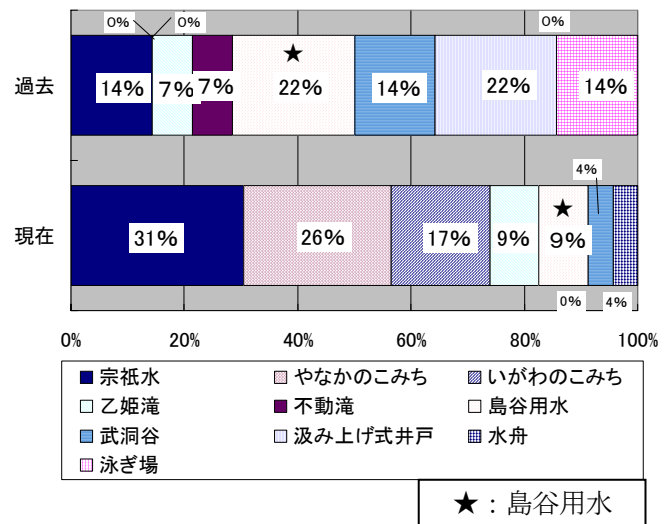


図10 水環境施設に関する想起要素の割合

5. ヒアリング調査

(1) 目的

この調査では①イメージマップと街を流れる用水路との関連性、②イメージマップ作成における想起順序、③道路を中心とした街の構造変化について、の以上 3 項目について聞くことで、水環境を中心としたこの街に対する住民の認識を整理することを目的とした。

(2) 調査結果

①の用水路に関しては、この街に長く住む住人にとっても用水路が暗渠されているとその存在も記憶の中で薄くなってしまいうようである。イメージマップには描かれていないがヒアリング調査で用水路のことを聞くと、ほとんどの人がその存在や位置に関して把握しており、コメントしてくれた。

②については城下町としての構造を理解しつつこの街のマップを描く人が多いことが分かった。寺社は城下町の砦として立地している、という理由により、まず(外の)寺社を描いてから中心市街地を描く、という意見が多かった。また、子供の頃のマップについては活動範囲の狭さやおもちゃや駄菓子や遊び場を中心とした話がでた。

③の道路構造の変化に関しては戦後大きな変動がないこともあってあまりコメントされる方も少なかった。今回のイメージマップ作成にあたり、街並みに注目して描いたという意見も聞いた。道路の形状などの構造は変化していないが建物の高さに変化が見られ、街並みが変化したことを示しているイメージマップはそういった変化を示しているものといえる。

これら住民の貴重な意見を通して、ヒアリング調査はイメージマップでは見えてこない住民の内面における街の構造を想起する裏づけとして示すことができた。

6. まとめ

共通して想起されている要素で特に多かったのが吉田川であった。街の中心を流れ、音や勢いといった力強さも併せ持つこの河川の存在は大きく、多くのイメージマップ作成者が想起した。しかしながら小さな路地や井戸・カワド・水舟・用水路といった水環境施設とその周辺の想起要素は少なかった。水の街と謳うこの街では河川以外でもっと住民の中に水環境施設に関わるものをアピールし、意識させていく必要があるの

ではないかと感じた。

また、イメージマップの過去と現在による想起要素の特徴も今回の調査では明らかになった。子供の頃における作成者の活動範囲は、ある一定の範囲に限られていることが多く、そのことにより過去のマップは描く対象としている範囲は狭いが場所ごとの詳しい説明がなされている。

現在のマップには観光マップで紹介されているような街全体が見渡せて名所や施設がどこにあるのかを示すものを描くという傾向が強かった。

現在と過去のイメージマップで想起した主な要素のうち、作成者の過去を振り返る子供時代が様々であり、その当時における街の様子も微妙な相違は見られるものの、上に述べた時代の特徴を示す要素は含まれているケースが多かった。

ゆえに、郡上八幡を説明するための主な要素はイメージマップを住民が描く時に想起することの多い「河川」・「橋」・「水環境施設」・「寺社」・「通り」と言える。

特に寺社の存在は住民の支持も示されたわけで、これからの街づくりに上手く活用できないか検討してみることもこの街の魅力を高めるのに必要となってくるのではないかと考える。

しかしながら、新旧の街のイメージ構造に相違が存在するかを把握することも本研究の目的の一つであったが、旧の街のイメージ構造は残念ながら把握できなかった。新旧、というより大人と子供時代による把握のし方の違い、といった特徴の方が明らかになった。

子供時代における街の把握の仕方について、現代の子供に対しても同様に現在の郡上八幡のイメージ構造をどう把握しているのかを調査する必要がある。また、今回把握できなかった旧の街のイメージ構造を把握するためにはイメージマップのみに頼るだけでなく、新たな調査方法を創り出すことも必要であると感じた。

参考文献

- 1) 清水浩志郎・木村一裕・木村宣幸・古山広功 (1987) : 「『地方都市』に対する市民イメージの構造化について」—日本都市計画学会学術研究論文集 pp277 - pp282
- 2) 岩永敬造・松本直司 (1988) : 「都市の心象風景に関する研究—長野市の心象風景のイメージ構造について—」—日本都市計画学会学術研究論文集 pp451 - pp456
- 3) 藤原篤 (1992) : 「歴史的市街地を持つ地方都市のイメージ構造」—日本建築学会計画系論文報告集 pp93 - pp102
- 4) K・リンチ (1968) : 都市のイメージ, 岩波書店
- 5) 渡部一二・郭中端・堀込憲二 (1993) : 水縁空間, 住まいの図書館出版局
- 6) 志水英樹 (1972) : 街のイメージ構造
- 7) 安藤昭・赤谷隆一・船水正雄 (1988) : 「まちのイメージの解析」—岩手大学工学部研究報告会 pp93 - pp103
- 8) 水辺空間調査 (2004) : 郡上市